

令和7年度 吉田特別支援学校経営計画

1 教育理念

「つながり合い 学び合う」

- ・すべての人が地域の中で自分らしく、つながり合う共生社会の推進に貢献する学校
- ・一人一人の人権・個性を尊重し、自立と社会参加を目指し、仲間と共に学び合える学校

2 学校教育目標

夢に向かって「いきいき」「なかよく」「すこやかに」 学びのびゆく人

小学部 「元気に なかよく すすんで 活動できる児童」

中学部 「自ら動き 仲間とともに 自信をもって生活できる生徒」

高等部 「地域の中で 自分らしく 全力で力を発揮できる生徒」

3 具現化の柱 ○3年後の目標

【授業】自立に向けた12年間の学びが社会参加につながる学校

- 一人一人が、やりがいと手ごたえのある学校生活を【授業】が支えている
- 適切な自立活動の目標設定(個別の指導計画)と地域・保護者も参加する【教育課程】が両立している
- OJTにより教職員が【専門性】を高めあっている

【連携】地域と学校と家庭とが共に豊かに育つ学校

- 【キャリアパスポート】を活用し、一人一人が自己理解を深め、自分らしく将来のことを夢見ている
- 吉田町に学校があることを活かした【コミュニティスクール】が展開している
- 自分の好きや得意を【スポーツや芸術、読書】で表現しあっている

【安心】自他を大切にすると心と体が育つ学校

- 1年を通して、【多方面に身を守る】ための知識や技術が身につく学習を進めている
- 教職員は、自分事として【安全研修、安全訓練、環境整備】を進めている
- 教職員は【守るために学ぶ】姿勢を持っている

4 本年度の取組

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
授業	ア 「やりがいと手ごたえのある」授業の実践	・ 視野を広げる学部研、伝達研修 ・ 合わせた指導、非認知能力についての研修(あすなろ研究協力校) ・ 研修テーマに基づいた授業検討 ・ 一人ひとりの授業力向上のためのチームー授業	・ 児童生徒は、それぞれにやりがいや手ごたえを感じて登校している。	研修課
	イ 地域と協働する教育課程の再編	・ 個別のプロセス図の活用 ・ 適切な個別目標の設定と系統性を押さえた年間指導計画の再編 ・ 学年主任と連携した自立活動の指導の充実 ・ 自立活動の指導の本校現状把握と課題整理	・ 教員は、自分の担当単元の設定理由を語ることができている。 ・ 教職員は、授業準備や分掌業務に十分に取り組んでいる(前年度比)	教務課 自立活動課
	ウ 教職員の専門性の向上のためのシステム作り	・ 新日課の運用と業務の3分類を参考にした業務整理 ・ 経年研修を軸としたよし特 OJT の実施	・ 教職員は、自分の決めたテーマに沿った研修を進めている。	管理職 各分掌課 各学部 事務部
連携	ア 児童生徒が主体的に取り組むキャリア教育の推進	・ 生活年齢や発達段階に応じた学部ごとのキャリア教育職員研修 ・ 高等部キャリアパスポートの見直しと活用 ・ キャリア CM マップの更新と活用事例収集 ・ キャリアパスポート実施校からの情報収集	・ 児童生徒が、自分の学習を振り返って記録する機会がある。 *キャリアパスポートの第一歩	キャリア教育課

	イ 吉田町の特色を生かしたコミュニティスクールの推進	・学校運営協議会で吉田町の ICT 活用実践を本校に生かすアイデア協議 ・吉田町内小中学校、近隣高等学校の授業研修への参加 ・高等学校との学校間交流の実施 ・共生共育の充実のための各学部の取組	・学校運営協議会の提案により ICT 活用が広がっている。 ・学校間交流、交流籍を活用した共同学習により、互いに成果を確認することができている。	地域連携課
	ウ 生涯教育につながるスポーツ・芸術・読書活動の拡充	・パラスポーツなどの実施 ・全校で取り組む体育祭の開催 ・作品展への参加 ・作品交流やスポーツ交流の実施（高等部部活動の目的と活動内容の見直し） ・全校で取り組む学校祭(もえぎ祭り10周年記念回の開催)	・一人一作品、作品展への応募ができている。 ・一人一スポーツ、一冊以上、好きなものがある。	体育課 図書表現課
安心	ア 学校安全計画の更新と自他を大切にする心の育成	・各訓練の実施と評価に基づくマニュアルの見直し ・性の指導の防犯の視点からの見直し ・人権教育、道徳全体計画に基づく指導と評価 ・人権チェックの実施と研修の実施 ・安全と成長を促す給食指導研修 ・外部講師を活用した薬学講座	・児童生徒は自分の命を守るための行動がとれている。 ・児童生徒は、人を思いやる気持ちを持ち、行動することができている。	生徒指導課 保健給食課 情報教育課 防災教育課
	イ 事故や大規模災害に備えた危機管理体制の強化	・スクールバス、自主通学指導 ・発災時訓練、行方不明者、不審者対応訓練での適切で迅速な行動の研修 ・毎月の各教室、施設の日常及び防災上の安全点検の実施 ・発災時のイメージが持てる起震車、当事者の話など、体験訓練の工夫		
	ウ 守るために学ぶ教職員の育成	・人権チェック項目の更新と活用 ・学部学年でのグループワークの実施 ・不祥事根絶研修改め「CARE-UP(セルフケア&アップデート)研修」の実施	・教職員は、児童生徒の安全に対する想像力を働かせて、日々の業務にあたっている。 ・教職員は人権感覚を磨き、児童生徒の見本となる行動がとれている。	管理職 各学部

※成果目標の評価は、本人・保護者へのアンケートと、授業や指導の中で教職員が見取りをもって行う。

※ICT 活用はすべての教育活動、業務の中で推進する

各学部、各課程、事務部、管理職単位で方針の提案をし、取組の連携や調整も図っていく。

調整の場は企画会とする。